

さとにきたら ええやん

監督・撮影：藤江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一史（梅丸）（アソビザル・ロケ撮影・制作） 編集：辻井源（梅丸）（アソビザル・ロケ撮影）
音響構成：渡辺文孝（アソビ）（アソビザル・ロケ撮影） 制作協力：神古良輔（さとにきたら） 五十嵐美穂、上田品治、志川謙 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力：小谷忠典
助成：金文化庁文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション 製作・配給：ノンデライズ 2015 日本 100分 カラー 16:9 / S.1ch / DCP

映画上映＋「こどもの里」理事長 荘保共子さんのお話

無料・申込不要

定員300名

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集いの場
「こどもの里」。人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、
涙と笑いあふれるドキュメンタリー映画

平成29年9月8日（金）

13:30～17:20

（13:00開場）

映 画：13:30～15:10

荘保さんのお話：15:20～17:20

生野区民センターホール



生野区民センター 住所 大阪市生野区勝山北 3-13-30

お車での来場はご遠慮ください。

日本語字幕・要約筆記あり

主催：さとにきたらええやん実行委員会

共催：生野区学童期子ども支援連絡会、地域共生ケア生野推進委員会、
生野区子ども・子育てプラザ、生野区社会福祉協議会

協賛：児童発達支援放課後等デイサービスきずなの森、いくの市民活動支援センター、
アイリス児童デイサービス、宅幼老所あでらんで、児童スポーツデイココペリ、
放課後等デイサービスじゃがいもくらぶ、輪母ネットワーク、田島童園、りんく、
ハッピーライフいくの、スリーピース、生野みんなの家、ビッキー療育センター、
プール学院中学校・高等学校、出発のなかまの会 （順不同）

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあなたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力をつ捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これからを歩む私たちに問いかけるものとは――?

「こどもの里」とは?

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所です「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

こどもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもできます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まる場所がなかったら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません

